

まるこやま

第55号

令和元年5月20日

〒699-1251
雲南市大東町大東2419-1
大東交流センター
TEL(0854)43-2130
E-mail:daito-c@hotmail.yoitoko.jp

大東交流センターだより

発行：大東地区自治振興協議会

新元号 令和

春の訪れを告げ、見事に咲き誇る梅の花のように一人ひとりが明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる、そうした日本でありたいとの願いを込めて

日経新聞（首相談話より）

万葉集「梅花の歌」

初春の令月にして、気淑（よ）く風和ぎ、
梅は鏡前の粉（こ）を披（ひら）き、
蘭は珮後（はいご）の香を薫（か）をらす。



日本初之宮 須我神社

大東総合センターが 移転オープン

旧大東総合センターは昭和34年に建てられた旧大東町役場を利用してきましたが、老朽化の進行により、大木原地内の大東健康福祉センターを改修し移転しました。5月7日の開所式には関係者25人が出席し、速水市長が「ここを拠点に隣接する大東地域交流センター、大東図書館、地域福祉センター、そして地域自主組織や社会福祉協議会などと連携しながらまちづくりが進み、地域が一層発展するよう祈念します」とあいさつされました。

新施設は、1階に市民福祉課（戸籍や住民票などの窓口業務や福祉・医療など）、2階に自治振興課（本庁との連絡調整や消防・防災・公共交通など）が配置され、18人の職員がこれまで通りの業務に従事されます。また、警備員による夜間、休日における緊急時の対応や窓口受付業務もこれまで通りです。なお、2階にありました調理室（栄養実習室）の利用は直接大東総合センター管理となり、夜間、

休日利用がこれまでよりも便利となりました。

一方、旧大東総合センターの建物解体及びその周囲の再整備については、2～3年かけながら対応される予定です。



ごあいさつ

大東地区自治振興協議会 事務局次長 恩田 仁志



風が爽やかに田園を吹き渡るこの好時節、例年のように新聞記事などで子どもからお年寄りまで年齢を問わず集い、「笹巻きづくり」を楽しんだということが紹介されます。お店にはだんごの粉が並び、また、くま笹もきれいに整えられて売られているところもあります。当たり前前の季節の光景と思います。ところが、以前勤務した大田市や浜田市では、このような食べ物はありませんでした。ちなみにそれらの地域でこの時期につくるのは「かしわ餅」です。ただし、葉は柏ではなく、かたら（正式名はサルトリイバラ）です。ですから何枚もの笹の葉で巻かれたちまきを持っていくと、たいへん珍しがられました。

さて、ご挨拶が後になりましたが、今年度から大東地区自治振興協議会の事務局員に加えていただきました。これまでは永く学校に勤務してまいりました。前述の石見地域のほか、隠岐でも生活したことがあり、同じ県内にあっても言葉や食べ物を始め多くの違いがあることを学びました。近年、奥出雲町内、さらに昨年度末まではお隣の加茂でも勤めました。いずれの勤務地においても、その地域の歴史や風

土、あるいは様々に展開されている文化などに触れることは驚きでもあり楽しみでもありました。

大東小・中・高で学び、また永く居住しているものの、この大東のことについてきっと知らないことがたくさんあると思います。ここへきてやっとこの地に向き合えるのではないかと楽しみにしています。中国山地の県境沿いの自治体では、豊かな水や土のある地域への回帰が始まっているとのデータが示されています。その流れは大東にもきっと訪れることと思います。豊かな町づくりに微力ながら努めて参ります。どうぞよろしくお願い致します。



おざかやけいき
『大坂屋系記』 有償頒布



A 4版 (54頁)
1,200円(税込)

「大東の歴史をたずねる会」では、知られざる大東の歴史の一端を紹介しようと『大坂屋系記』の資料整理を進めてきました。江戸期大東の経済・政治の中心として活躍した大東・木村家(大坂屋)の事績について25代当主三郎兵衛(明治中期)が書き写した資料の解説書です。

取扱い
大東交流
センター

書籍の 出版案内



A 4版 (105頁) 1,000円(税込)

『大東七夕祭フォトコンテスト写真集』 有償頒布

「サーイサーイサイサイ テンテコテンノ七夕サン テンテコテンノ七夕サン・・・」8月6日の夜に浴衣やハッピー姿の子どもたちが、短冊やスイカ提灯で飾った笹竹を手に大きな声でお囃子しながら鳴り物、山車とともに街中を練り歩きます。

440年以上の歴史があり、「子どもが主役」「平和への願い」を大切にきた素朴なこの子ども七夕祭りは大東の代表的な夏の風物詩であり、全国でも有名な七夕行事です。

このような大東ならではの子ども七夕祭りの情景、子どもたちの輝きを写真に収め、七夕祭の更なる魅力を広く知っていただくことを目的にスタートした「大東七夕祭フォトコンテスト」が、平成30年で25回目の節目を迎えました。この機会にこれまでの入賞作品を収録した写真集を「大東七夕まつり保存会」と「大東地区自治振興協議会」で共同出版しました。

少子化の時代を迎え大東子ども七夕祭りの運営に多くの課題がありますが、時代を超えて受け継がれた地域に根付くこの伝統芸能は、地域・ふるさとの絆の証としてなくてはならない存在です。愛情、元気、誇りをもって次世代に七夕が継承できることを願うものです。



郷土の歴史文化講演会 (5/12)
「大東出身の近世画家 堀江友聲」
講師 県立美術館 大森沢土氏



第1回生涯学習絵画教室 (5/12)
「油彩画 水彩画 クレパス画」
講師 日展画家 藤本雄二氏



大東高校創立百周年記念講演会 (5/20)
「これからの百年に向かって」
講師 池上彰氏

カメラのアイコンと共に「今月のパチリ」

まなびの泉

縁の下の力持ち

大東高校の通学を支援する会 会長 安原 重隆

大東高校に「通学を支援する会」があります。当校への入学を希望する遠方からの生徒諸君に下宿などのお世話をしています。本来、県立の寄宿舎があるべきですが……。ともあれ「支援する会」を紹介しましょう。

2年前からお世話していますが、現在は大東地区内の2か所で、男6女3計9名に宿舍と食事を提供しています。一つは、田中上の広い空き家を借り受け、「耕心寮」と名付けて、舎監を置いて食事等のお世話をしています。今一つは、新庄西の民家の離れをお願いし、宿と食事の提供をいただいています。

経費等の収入は、下宿生徒の負担が主ですが、助成金・補助金も添えています。支出のうち食費



をできるだけ抑えるため、「耕心寮」のお米は大東町内の地区振興会や個人からの寄贈で賄っています。昨年度は23袋いただきました。感謝です。

「支援する会」の組織は、卒業生会・部活動後援会・野球部関係団体・佐世だんだん工房等（役員約10名）と、高校・雲南市・総合センター・地域自主組織等（関係者約10名）で構成しています。

この大東の地で、勉学や部活動に精励し、令和を担う若者が、しっかり成長してくれることをひたすら願っての「支援する会」です。

子どもの成長が楽しみです

北町 青木さやか（保護者）



大東の観音祭りは日露戦争戦没者の供養と家内安全を祈願するために明治39年より行われてきました。子どもたちの健やかな成長を願って稚児行列も合わせて行われています。

私の姉も30数年前に観音祭稚児行列に参加したそうです。その稚児行列も一時途絶えましたが3年前に復活し、その時から私の娘も参加しました。頭の上の大きな飾りがお辞儀のたびにずり落ちて、あごを前に出し緊張しながら歩く姿をクスクスと見ていました。そんな娘が今年も行列に参加し、かわいらしい衣装に身を包み、近所の方々や保護者に見守られながら出発しました。さすがに3回目ともなると、「楽だった〜」との本人の感想。ご褒美にいただいたお菓子で達成感をあじわっていました。行事をとおして歌を覚え、人の話を聞き、伝統行事を自分で感じて大きく成長してほしいです。

あいあい募金

ご寄付に
感謝致します

事務局 TEL.43-2130

- ・大東町(清田) 千原 孝通 様 (見舞返し) ・大東町(新庄南) 水戸 勝春 様 (玄米) (高校寄宿生へ)
- ・大東町(新庄南) 松本 久人 様 (香典返し) ・大東町(神田町) 光谷 唯視 様 (玄米) (高校寄宿生へ)
- ・大東町(新庄東) 藤原 昌弘 様 (香典返し) ・大東町(北町) 細川 康男 様 (玄米) (高校寄宿生へ)

皆様からお寄せいただいたご寄付は地域の絆を深め、支えあう活動に対する補助金等に活用させていただいております。

平成31年 4月末現在の 人口・世帯数 ()内は対前々月比	項目	総人口	男性	女性	世帯数	高齢化率
	雲南市	38,120人(▲272人)	18,384人(▲137人)	19,736人(▲135人)	13,777世帯(+6世帯)	38.56%(+0.26%)
	大東町	12,178人(▲72人)	5,939人(▲31人)	6,239人(▲41人)	4,179世帯(+6世帯)	38.41%(+0.24%)
	大東地区	3,559人(▲20人)	1,707人(▲8人)	1,852人(▲12人)	1,251世帯(▲4世帯)	—

資料：雲南市HPより



古希すぎても 生涯現役で

奈良県広陵町（中町出身）山田 光春



大東中学校2年生の春（昭和36年）に父親の仕事の関係で、生まれ故郷の大東町中町から家族共々、奈良県広陵町に引っ越して58年が経ちました。中町の役場小路に母と5人の兄妹で13年間過ごしました。当時は自転車もなく、両手に重たい豆腐を下げて遠くまで山道を歩いて行商に、また山へ柴刈りにと、働き者の母だったと記憶しています。衣食住には何一つ満足はしていませんでしたが、多くの友達には恵まれ感謝しています。今でも大東小学校の同窓会には参加し交流を深めています。

奈良県広陵中学校に2年から転校してきたものの、方言の奈良弁が早口で何を喋っているかわからなくて苦労しました。また、出雲の“ずうずう弁”も独特の訛りがありいろいろ苦労しました。結局、母と長い生活をしていたので訛りが抜けることはありませんでしたネ。

58年間住んでいる広陵町は大阪のベッドタウンとして開けサラリーマンも多いところですが、また、産業は靴下製造が盛んである一方、農業は大和なす、イチゴが特産です。私も靴下に刺繍を入れる仕事を長くやりました。

地域貢献にも全力で取り組みました。32歳の時に地元推薦を受け町議会議員を8期32年間やらせていただき、平成最後の年に旭日双光章の叙勲を受章できました。皆様のご支援に心から感謝しています。

平成22年に介護ヘルパーの資格を得てからは、NPO法人の知的障がい者の作業所で入所者と一緒に働いています。日曜日にはその子たちとプールや山登りを楽しんだり、また大声で笑ったりおしゃべりをして毎日を送っています。古希をすぎても生涯現役で、新元号『令和』の時代も健康第一で頑張ろうと決意しています。

大東町の皆さまの健康と益々の発展を祈っています。ありがとうございました。



明神山から望む 大和盆地



自然相手は難しい

雲南市さくら守 遠田 博

私は桜が好きで桜守になったわけではありません。子どものころからお花見をした記憶もありません。

それではなぜ桜守をしているのか。前職が森林・林業に関わる仕事をしていて、苗木の作り方、育て方、病虫害防除等の樹木に関わる一応の知識・技術が身につけていたことから、初代桜守に頼まれて引き受けました。

春にあれだけ見事にたくさんの花を咲かせるということを除けば、桜も樹木の一つでしかないという視点で、樹木の技術者として取り組んでいます。

偉そうなことを言っても自然が相手の仕事。人間の知識・技術だけでは対応できないことも多いので苦労もしています。

桜のことやその他の樹木のことなど、なんでも相談があればご遠慮なく……



（絵：大東町東町北 細田 滋）

郷土の暮らしと文化

「不味公と大東茶」

大東の歴史を探る会 宮澤 明久



松江藩七代藩主松平治郷は、藩政改革で藩の財政を立て直したとして、また不味と号して茶の道を興隆させたとして注目され、不味公没後200年の昨年は、松江市を中心として多くのイベントが催された。

不味公は、安永2(1773)年の巡行の際に大東の宿地大坂屋(おざかや)で飲した茶が気に入り、茶の栽培を宗専寺に命じたと伝えられている。これを受け奈良宇治の製茶家上林三入の協力を得て茶種を入手し十楽寺山(東町南東の山)と丸子山で栽培を始めた(「大東町茶業沿革」大東町役場、大正7年)。

不味公は茶道の興隆に寄与するとともに茶道具の収集を進め「雲州蔵帳」とよばれる茶道具の収集目録本を残し後世にその名を残した。しかし、その陰では蕨年と言われる藩の借金の帳消しなどが藩財政改革のために行われ、町内の素封家もその影響を受け衰退したと言われ大東の経済にも影響を与えたよ

うである。

その後、明治・大正・昭和・平成と先人たちが茶産業の振興に取り組んできている。明治18年には遠藤仙市ら4名が発企して大東町製茶傳習所を開設し山城国宇治より岡田庄次郎を招聘して県下から募った生徒に茶樹栽培法、剪枝法、玉露・煎茶等の製造方法を伝習している。

このように大東の茶にも240年ほどの歴史があるが松江に比べよく知られていない。昭和年代には大東の製茶も盛んであったが、平成にはいると次第に各家庭での茶摘みの光景も見られなくなった。昨今は健康のため茶の効用が推奨されており飲茶の推進を図り、地産地消、地場産業の応援をしたい。



大東のなつかしい風景や人々の生活を写した写真がありましたらご提供ください。(編集委員会)



石川 利政さん

(清田在住)



令和元年最初の「この人に聞く」に登場して頂いた方は、石川利政さんです。

この人を知らないモンは大東のモンじゃない? 遠くでの仕事を終え帰宅したばかりのところ晩飯を取らずに応じていただきました。

Q 仕事における「モットー」は?

何事も「挨拶」から、仕事も一緒にまず「挨拶」から始めます。現場だけでなく、近隣の人達とも挨拶を交わし仲良くすること。それが仕事をやり易くする秘訣でもあるよ。そして「信頼される」仕事をするよ。

Q 今の職業を始めたきっかけは?

17歳で父を亡くし、22歳の時、母が病気で倒れ苦労しました。最初は工務店で重機を扱わせてもらい、その後大工を勧められ転職、建設会社で修行、2級建築士の資格を取得、30代半ばで起業しました。若くして結婚、女房と二人で土木作業もしました。大変だったけどいい思い出だね。

Q 「座右の銘」とかは?

「根性」という言葉が好きだね。何事に対しても「負けるもんか」と頑張ること。「石の上にも3年」、「辛抱」もね。

さすが「苦勞人」です。

Q 笑顔の秘訣は?

笑うと「無」になれる。世界中言葉は違っても「泣く」とこと「笑う」ことは万国共通語だよ。確かにそのとおりですわね。

Q 今後の人生はどのように過ごしましょうか?

毎朝、気持ちの抛り所である神様・仏様・ご先祖様を拝みます。「今日も一日頑張ります。」「ありがとうございます。」「報告「お願い事はあんまりせんよ。」 これからも皆が気軽に立ち寄ってくれる家庭を築いていきたい。

「仕事の他に趣味はない。一生懸命世話やいて依頼された工事が完成し、喜んでもらえることが一番。それが生き甲斐でもあるしね。」
独立してから300件以上の新築・増築等手掛けて来たといひます。
私が死んだ後も茶飲み話に話題に上がり、「石川さんは良い人だったが一」と良い評価をしてもらえる人になりたい。 とも。
いやいや元気な今でも充分話題の人ですよー。
毎日早朝自宅を出発、工事現場へと車を走らせます。「仕事では遅刻はしない。」「良い仕事、満足してもらえる仕事をする。」ために…。
さあ、今日もどこかで石川さんの元気で明るい笑い声が聞こえてきますよ。